

“南極の皇帝” エンペラーペンギンの赤ちゃんが誕生しました！

～10月9日（火）より 赤ちゃんを公開いたします～



10月3日（水）、アドベンチャーワールド（和歌山県白浜町）で12羽目となるエンペラーペンギンの赤ちゃんが誕生しました。過去に誕生した赤ちゃんと比較すると、体は大きい方で、力強く鳴いています。エンペラーペンギンは世界に生息する全18種類の中で最も体が大きく、地球上で最も南に分布するペンギン種です。エンペラーペンギンは通常1つの卵を産卵し温めます。

アドベンチャーワールドでは事故で、卵や赤ちゃんが押しつぶされることを防ぐため、温湿度の管理ができる孵卵器で卵を温め、誕生させています。今回の赤ちゃんは体に力の付き始める体重約500gまでスタッフの手で育て、親鳥のもとへ返す初期人工育雛を行います。

【エンペラーペンギンの赤ちゃんについて】

- 孵化日 : 2018年10月3日（水）
- 産卵日 : 2018年7月24日（火）
- 性別 : 不明
- 体重 : 254g（10月8日現在）
出生時 301g
- 孵化日数 : 72日間（過去最長）※平均68日間
- 親情報 : 父親 1997年11月16日搬入（21歳）
母親 1997年11月16日搬入（21歳）

【エンペラーペンギンの赤ちゃん公開について】

- 公開開始日 : 2018年10月9日（火）
- 公開時間 : 開園から終日ご覧いただけます。
- 公開場所 : ペンギン王国1階
※スタッフが親鳥に扮して行う給餌の様子もご覧いただけます。

【親鳥主体の子育て方法にチャレンジ ～未来の繁殖を見据えて～】

エンペラーペンギンの繁殖は当初、赤ちゃんが無事に卵からかえり成長することを重視して、体重40kg近くある親鳥が卵をつぶしてしまわないように人の手で育てる「完全人工育雛」を行っていました。2004年に初めて赤ちゃんが誕生しましたが、完全人工育雛によって育った赤ちゃんは、人間を親として認識し、成鳥となってもペアを作らず、次の世代の繁殖につながらないことがわかりました。2012年よりアドベンチャーワールドでは、卵を親から預かり、孵卵器にて孵化させ、その後雛の体重がある程度成長するまで人の手で育て、体力をつけてから親鳥へ返す「初期人工育雛」という方法にたどり着きました。

■初期人工育雛のポイント

①スタッフは親鳥に扮して給餌

「生まれて初めて見た動くものを親と認識する」という鳥類の習性を利用し、給餌の際スタッフがペンギン型の帽子を被り、ペンギンの嘴に見立てた手袋を装着します。声は一切発さずに録音した親鳥の鳴き声を聞かせ給餌します。

②親鳥には擬卵を抱かせる

初期人工育雛中、親鳥には擬卵（石灰で作った偽物の卵）を抱かせ、まだ赤ちゃんが生まれてないと思わせます。赤ちゃんが約500gまで成長したら、そっと擬卵と引き換えに赤ちゃんを抱かせます。

【初期人工育雛の様子】



①スタッフが親鳥に扮して給餌する
(体重が約500gになるまで)



②生後約3週間で親鳥のもとへ返す



③生後約1か月（2013年に誕生した赤ちゃん）

【アドベンチャーワールド エンペラーペンギン繁殖の歩み】

1997年：エンペラーペンギン繁殖研究開始

2004年：日本で初めてエンペラーペンギンの赤ちゃんが誕生。世界でも2園館目となる貴重な出来事でした。

2004年～2011年：完全人工育雛によって計6羽の赤ちゃんが誕生・成長。

2012年：初期人工育雛に初めて挑戦するものの、親鳥の給餌がみられず、完全人工育雛に切り替える。

2013年：エンペラーペンギンの繁殖において、初めて親鳥からの給餌を確認。(初めて初期人工育雛に成功)

2015年：初期人工育雛に挑戦するものの、親鳥からの給餌がみられるまで約3か月かかり、その間はスタッフが給餌を行う。

2016年：初期人工育雛に挑戦してから4羽目、累計10羽目の赤ちゃんが誕生。

親鳥からの給餌がみられるまで約2週間かかったものの、親鳥のもとで無事に成長。

2017年：10月2日に11羽目の赤ちゃんが誕生。

2018年：10月3日に12羽目の赤ちゃんが誕生。

【アドベンチャーワールド ペンギンプロジェクトについて】

アドベンチャーワールドでは、1978年の開園時にフンボルトペンギンとイワトビペンギンの飼育を開始し、1990年から自然界で暮らすペンギンコロニー（繁殖群）を再現すべく、「ペンギンプロジェクト」として本格的に飼育・繁殖研究に力を注いできました。アデリーペンギン、ヒゲペンギン、ジェンツーペンギン、キングペンギンと繁殖実績を積み、1997年に世界最大のペンギン、エンペラーペンギンの繁殖研究を開始しました。

■アドベンチャーワールド ペンギン繁殖実績について

1978年：フンボルトペンギン初繁殖。

1990年：アデリーペンギン、ヒゲペンギン、ジェンツーペンギンの卵を搬入。人工孵化、育雛を行う。

1992年：キングペンギンの卵を搬入。人工孵化、育雛を行う。

1994年：ジェンツーペンギン初繁殖。

1995年：キングペンギン初繁殖。

1996年：アデリーペンギン初繁殖。

1997年：エンペラーペンギンの赤ちゃんを搬入。人工育雛を行う。

1998年：ケープペンギン初繁殖。

1999年：ヒゲペンギン初繁殖。

2004年：エンペラーペンギンの繁殖に国内初成功。世界でも2園館目。

2005年：エンペラーペンギンの国内初繁殖に対して日本動物園水族館協会より「繁殖賞」を受賞。

2006年：イワトビペンギン初繁殖。これにより国内最多となる8種類のペンギンの繁殖に成功。